キコニアレター

2017.11.15発行 No.13

写真提供　沖野智美さん（徳島県）

コウノトリ定着推進連絡協議会
浅野 由美子 ASANO Yumiko
1973年生まれ。徳島県鳴門市にコウノトリが飛来したことをきっかけにコウノトリの観察を始める。ほぼ毎日現地で観察を続け、SNSでのコウノトリの情報発信に取り組んでいる。

コウノトリに出会えてよかった

「親鳥が吐き出しした！ヒナが生まれとる！」

2017年3月21日夕方、親鳥が巣内のヒナへエサを吐き出して与える行動を確認した瞬間でした。ついに、鳴門のコウノトリペアにヒナが誕生したのです。2015年5月下旬から始めた2年3か月に及ぶ鳴門のコウノトリの観察ライフの中で、わたしにとって一番嬉しい出来事でした。

コウノトリの観察を始めたきっかけは、当時保育園へ通っていた娘のお迎えのついでに見てみようと思ったことでした。「珍しい鳥が大麻町に飛来している。」このことが新聞やニュースでたびたび取り上げられ、巣の周辺には日増しにギャラリーが増えるとともに鳴門市大麻町の名前が全国へ広がっていきました。お迎えのついでという隙間時間を利用して見に行き始めただけのものが、行ってみればコウノトリの飛翔する姿や佇まいに魅了され、今やわたしの人生を変えたといっても過言ではないほどです。さらにコウノトリとの出会いは、全国の様々な人たちとの出会いをもたらしてくれました。

今でこそ、鳴門のコウノトリは全国のコウノトリファンに親しまれるようになりましたが、抱卵失敗、観察者のマナーの問題等のトラブル…など、ここまで来るのに一言では言い表すことのできない紆余曲折がありました。しかしながら、官民学の連携と情報共有、サポートしてくださる地元住民やコウノトリ愛好家、兵庫県立コウノトリの郷公園等のバックアップのおかげで、素人主婦であるわたしがここまでやってくることができたのです。

今や野外で暮らすコウノトリは120羽を越え、みなさんの家の近くへ飛んでいくことも遠い話ではありません。鳴門ではアメリカザリガニやウシガエル等の外来種を好んで捕食、人里に近い場所で生活し、里山の環境変化のバロメーターとなっている貴重な鳥です。少なくともわたしにとっては、幸せを運んでくれる神様の使いのような存在です。コウノトリを目的に鳴門へ来られる方へ鳴門のコウノトリの見所などを紹介したときに、「コウノトリに出会えてよかった。」と言っていただく言葉が何よりの励みであり、私の観察ライフの糧となっています。

コウノトリの個体数 (2017.11.6 時点)

飼育

施設・拠点名	オス	メス	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	28	28	56
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	16	20	36
養父市伊佐拠点	1	1	2
朝来市三保拠点	1	1	2
計	46	50	96

野外

カテゴリー	オス	メス	計
リリース	15	12	27
野外巣立ち	26	52	78
野生	0	1	1
他府県リリース	8	3	11
他府県巣立ち等	4	2	6
計	53	70	123

29 教Ⓟ2-022A4

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork

コウノトリにとって安心安全とは？

兵庫県立コウノトリの郷公園
獣医師
MATSUMOTO Rei
松本　令以

2017年は、コウノトリの野生復帰にとって、ひとつの節目となる出来事がいくつかありました。2005年に兵庫県でコウノトリの試験放鳥が始まって以来、野外コウノトリの個体数は着実に増え、ついに今年、100羽を超えるまでになりました。それに伴って、コウノトリが飛来した都道府県や市町村の数も増加し、2017年8月、最後までコウノトリが確認されていなかった秋田県で飛来が確認され、これで47すべての都道府県へのコウノトリの飛来が確認されたことになります。さらに、兵庫県豊岡市と、豊岡市に隣接した京都府京丹後市以外の地域では初めて、徳島県鳴門市でコウノトリが繁殖し、無事に巣立ちを迎えました。国内のコウノトリは、確実に絶滅の淵からよみがえりつつあります。

しかし、コウノトリの野外個体数が100羽に到達した陰で、実はあまり知られていない事実があります。それは、人間活動に起因してケガをしたり、死亡したりするコウノトリが少なからずいることです。私が着任した2016年４月以降だけでも、19羽のコウノトリが野外でケガをするなどして救護されました。

今回、これまでの野外コウノトリの救護や死亡の原因について、データを集計して分析してみました。

2005年にコウノトリの郷公園が試験放鳥を開始して以来、2017年10月までに57羽のコウノトリが放鳥されてきました。また野外では、136羽のコウノトリの巣立ちが確認されています。このほか、大陸から飛来したと思われる野生由来の個体が2羽、巣立ち前に救護・人工育雛後に解放された個体が9羽います。これらの合計202羽がコウノトリの野外個体群ということになります。これらのうち、88羽のコウノトリが、ケガをして救護されたり、事故などで死亡したりしています。野外個体数の増加とともに、救護や死体収容数も増加してきています。その原因として、防獣ネット・電柵・防鳥用テグスなどへの絡まり、送電線や鉄塔に関する事故（写真１）、交通事故、誤射などの人間活動に起因するものが全体の45.5％（40羽）をしめています（図１）。特に、防獣ネット・電柵・防鳥用テグスなどへの絡まり、送電線や鉄塔への激突が増加傾向にあります。救護された個体のべ58羽のうち38羽が野外に再び解放され（67.2％）、16羽（27.6％）が死亡しています。

写真１　送電線鉄塔に足が絡まったコウノトリ

また、巣立ちした幼鳥が1年以内に救護または死体収容される割合が、11.1～56.3％（平均38.6％）に及ぶことが明らかとなりました。

兵庫県や豊岡市では、人もコウノトリもすめる安全安心な地域づくりを目標に、減農薬や無農薬の農作物づくり、生きものが多く生息する河川や湿地の環境づくりなど、様々な取り組みが行われてきました。これによりコウノトリが暮らすことができる環境が創出され、農業振興も活性化されてきました。しかし、野外での個体数の増加とともに、人間活動に起因してケガをして救護されたり死亡したりするコウノトリも増えてきている現状を考えると、コウノトリにとってはまだまだ安全安心とは言えないのではないかと思います。様々なグッドニュースの多かった2017年、あらためて私たちは、今まで行ってきた取り組みをもう一度見つめ直し、人間活動に起因したケガを未然に防ぐための対策についても考えていかなければなりません。

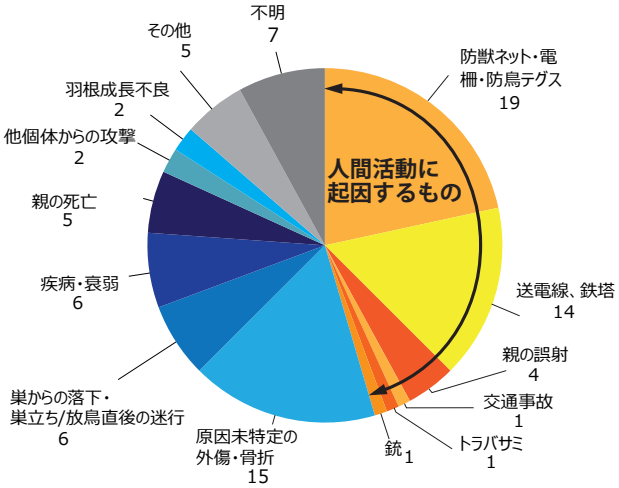


図１：救護・死亡原因（2017 年 10 月末時点）

RRM No.8 ［コラム］ column

朝、顔をあらう水が　冷たくなった
昼の蝉は　残っているが
夜はマツムシ　草叢にすだく
夏と秋を　いったりきたり
そんなキャンパス　秋の日々
神無月ともなれば　祥雲寺の祭り
若きマスラオ　神輿をかつぎ
乗り込む乙女　叩くや太鼓
頼もしきかな　はじける若さ

鴻鵠子

知ろう 学ぼう 郷公園

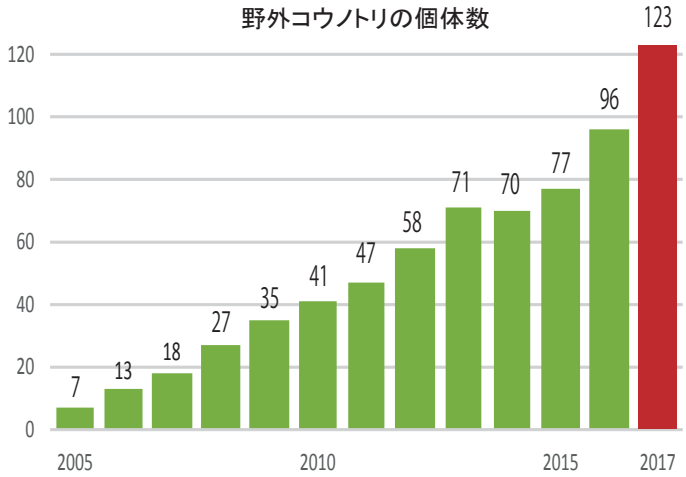
2005 年に兵庫県立コウノトリの郷公園が行った試験放鳥から 12 年が経過しました。再びめぐってきた「酉年」にコウノトリはめざましい活躍を見せています。

TOPICS 1

2005年の試験放鳥以後、コウノトリの繁殖は豊岡とその周辺に限られていましたが、今年初めて徳島県鳴門市と島根県雲南市の電柱でヒナが誕生しました。

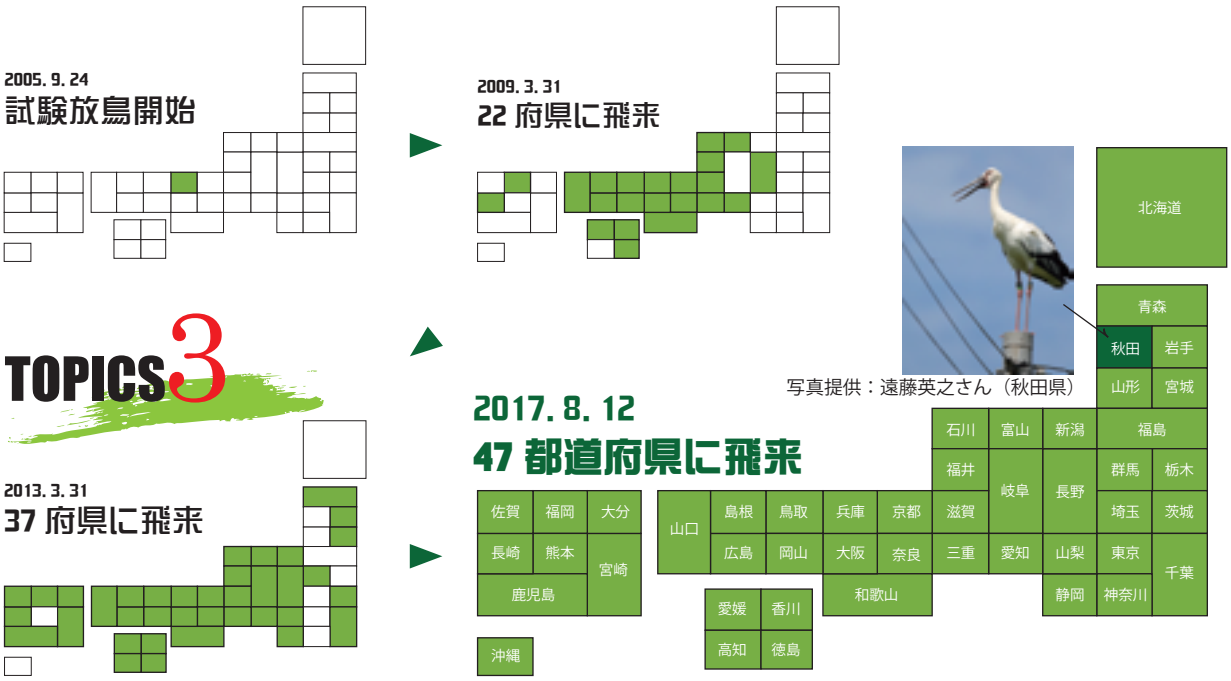
TOPICS 2

6 月 18 日、野外個体数が 100 羽に到達することを記念して「野外コウノトリ 100 羽記念イベント」を開催しました。コウノトリ文化館は参加者であふれかえりました。



リリース個体とその子孫によるペアリングが進み、今年は最大で13ペアが成立しました。野外個体数は試験放鳥以後、着実に増え続け、6月19日には、ついに100羽に到達しました。その後の巣立ちを合わせると現在123羽が野外で生活しています。

TOPICS 3



写真提供：遠藤英之さん（秋田県）

8月12日に秋田県仙北市へコウノトリが飛来していることが確認されました。これにより全国47都道府県でコウノトリの飛来が目撃されたことになります。コウノトリは「全国へ、そして世界へ」を合言葉にした郷公園の野生復帰の取り組みが形となりました。

INFORMATION

「約束のケージ」模型製作プロジェクト継続中！

ON GOING

1965 年に始まるコウノトリの保護増殖の原点であるコウノトリ「約束のケージ（第 1 フライングケージ）」の保存・維持を進めるために昨年 9 月から進めている県立豊岡総合高等学校生によるケージの模型製作について、このたびミニチュアが完成しました。平成 30 年度の完成に向けて引き続き取り組みを進めます。

ON GOING

コウノトリ野生復帰プロジェクト応援ください！

兵庫県では、ふるさと兵庫を応援したい・貢献したいという方の善意に基づく「ふるさとひょうご寄附金」を募っています。本県では 14 のプロジェクトがあり、その中の一つ「コウノトリ野生復帰プロジェクト」では、コウノトリ野生復帰グランドデザインに基づき遺伝的多様性の向上・新たな繁殖個体群の創設など、コウノトリの未来へ向けたプロジェクトに寄附金を使わせていただきます。どうかご支援をお願いします。

寄附に関するお問い合わせ先
兵庫県立コウノトリの郷公園
TEL 0796-23-5666　FAX 0796-23-6538
E-mail　kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
兵庫県教育委員会社会教育課
TEL 078-362-3043　FAX 078-362-3927
E-mail　syakaikyouikuka@pref.hyogo.lg.jp

ご報告とお礼

平成 28 年度は **13 件**のご寄附をいただき、
その合計額は **1,478,000 円**となりました。
いただいたご寄附は、以下の事業等に活用させていただきました。

- パンフレット
  「あなたのまちにコウノトリが飛来したら、」の増刷
- 県立コウノトリの郷公園ホームページ英語サイトの制作、開設
  （http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/en/）
- コウノトリの治療機器、手術器具の購入
  （血液中酸素測定機器など）
- 高額納付者（30 万円以上）へ愛称命名権を付与し、愛称ネームプレートをケージに設置

引き続き兵庫県立コウノトリの郷公園では、
プロジェクトに賛同いただき、
ご支援いただける方を募っています。

コウノトリ野生復帰プロジェクト
http://www.hyogo-c.ed.jp/~shabun-bo/shisetsu/kifu.html

兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科

「冬のオープンキャンパス」を開催

対象：当研究科に興味のある方、
受験を検討されている方など

日時：H29.**12.24　13:45-16:15**
場所：兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
（兵庫県豊岡市祥雲寺128番地）

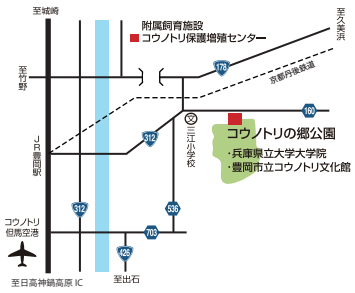
申込・問合せ ：兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
tel. 0796-34-6079（学務課）
詳細は当研究科HPをご覧ください

地域資源マネジメントについて
学びませんか

詳しくはWEBで
www.u-hyogo.ac.jp/rrm

ACCESS！

◎神戸から［約２時間30分］
　姫路から［約２時間］
　最寄りＩＣ（北近畿豊岡自動車道）
　日高神鍋高原ＩＣから30分
◎ＪＲ山陰本線「豊岡駅」から約4.5km
　全但バス（コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き）
◎コウノトリ但馬空港から約12km



編集後記

今シーズンは、徳島県に続き島根県でも野外で繁殖、野外コウノトリが 100 羽に到達、そして全国 47 都道府県での飛来確認というコウノトリの野生復帰において記念すべき年となりました。生息域が全国へ広がることにより、今後、コウノトリと人との接点はますます増えることでしょう。野生動物と人とのほどよい距離とはどの程度のものなのでしょうか。コウノトリを見つめつつ考えています。　　主任指導主事　西井喜久

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork
兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷 128　tel：0796-23-5666　fax：0796-23-6538

開園時間：９：００～１７：００
休 園 日：毎週月曜日
（休日に当たるときはその翌日）
・12 月 28 日～1 月 2 日　1 月 3・4 日は特別開園日です

e-mail：kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ：http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
facebook ページ：https://www.facebook.com/satokouen/